7
モードの活用

利用するモードを選ぶ…… 7-2
オフィスモードで使う…… 7-3
グループモードで使う…… 7-9

利用するモードを選ぶ

本電話機で利用する待受／通話モードを選択します。

待受モードについて

現在設定されている待受モードは、画面の左上端に表示されています。各モードと表示されるアイコンについて以下に説明します。

	公衆モード ワイモバイルの公衆基地局（アンテナ）があるサービスエリアで、ワイモバイルの電話機として使います。
	オフィスモード 事業所用コードレスシステムの子機として使います。
	グループモード グループモード対応電話機どうしで、トランシーバとして使います。
	公衆 / オフィスモード（デュアルモード） 公衆モードとオフィスモードの２つのモードで同時に待ち受けます。 は上側が公衆、下側がオフィスの状態を表示します。
	公衆 / グループモード（デュアルモード） 公衆モードとグループモードの２つのモードで同時に待ち受けます。

オフィスモード、および公衆 / オフィスのデュアルモードで使うには

本電話機に対応した事業所用コードレスシステムが設置された環境で、本電話機が登録されている必要があります。

グループモード、および公衆 / グループのデュアルモードでグループ通話を行うには、本電話機１台に加えて、グループモードに対応した端末１台以上が必要です。

待受モードを切り替える（待受モード設定）

1 待ち受け画面で ● 2 1

「待受モード」画面が表示されます。

2 次の項目より選択 → ●

1 公衆
2 オフィス
3 公衆／オフィス
4 グループ
5 公衆／グループ

待受モードが設定され、「設定しました」と表示されます。

ご注意

- 以下のモードは、登録されているときのみ選択することができます。
  - ・オフィスモード、公衆 / オフィスモード「オフィスモードで使う」（☞ 7-3 ページ）
  - ・グループモード、公衆 / グループモード「グループモードで使う」（☞ 7-9 ページ）
- 通話中は、待受モードの変更はできません。
- 待ち受け画面で ● ☎ または ● 5 6 1 を押しても、待受モード設定画面が表示されます。

オフィスモードで使う

オフィスシステム（PBX）に登録し、事業所用コードレスシステムの子機としてご利用いただけます。接続装置の電話回線を利用して電話をかけたり受けたりできます。
また、「ダイヤルアップ」で、接続先として事業所内オフィスシステムのリモートサーバや利用しているプロバイダのアクセスポイントなどを設定すると、オフィスモードでＥメールの送受信などの機能を利用することができます。「ダイヤルアップの接続先を設定する（ダイヤルアップ）」（☞ 3-37 ページ）

- 事業所用コードレスシステムの子機としてご使用になる場合、使用する事業所などに事業所用 PHS システムが設置されている必要があり、また、その事業所用システムの子機として本電話機が対応している必要があります。
- オフィスシステム（PBX）に登録してください。登録すると、内線番号が設定されます。
- オフィスシステム（PBX）は、各会社によって異なります。また、電話のかけかたや転送などの操作方法は、PBX の設定によって、本書の説明と異なる場合があります。
- 対応する PBX、登録方法など詳細については、設置業者、PBXメーカなどにお尋ねください。

■ モードを切り替える

オフィスシステム(PBX)の子機として利用するときは、待受モードを「オフィス」または「公衆 / オフィス」に切り替えます。「待受モードを切り替える（待受モード設定）」（☞ 7-2 ページ）

電話をかける

オフィスシステム（PBX）の子機として電話をかけるときは、一般のオフィスの電話機と同じようにご利用いただけます。デュアルモードの場合、「優先発信切替」が「オフィス、グループ優先」になっていることをご確認ください。「優先発信するモードを切り替える（優先発信切替）」（☞ 7-5 ページ）

- 市内電話発信のとき、外線発信番号のあとに市外局番の入力は不要です。
- 国際電話がご利用いただけます。

1 内線の場合、相手の電話番号を入力
外線の場合、外線発信番号を付けて相手の電話番号を入力

電話帳から電話番号を検索するには
「電話帳を使って電話をかける」（☞2-35ページ）

発信履歴などから電話番号を検索するには
「記録されている電話番号にかける（発信履歴／着信履歴／番号メモ）」（☞ 2-6 ページ）

電話番号を修正するには
◉ で修正したい箇所にカーソルを移動し、[クリアマナー] で消去してから、[□ ､､] ～ [5 JKL]、[✕ ･･]、[#⇄] で正しい番号を入力します。

あらかじめ外線発信番号を登録しておくと
外線発信番号なしで電話番号を入力したあとや、電話帳などからの発信時に [0 ｱ] を押すだけで、電話番号の先頭に外線発信番号が付けられます。「外線発信番号を登録する（外線発信番号）」（☞ 7-4 ページ）
また、0 から始まる 10 桁以上の番号に自動的に外線発信番号を付けることもできます。
「自動的に外線発信番号を付ける（自動外線発信番号付加）」（☞ 7-4 ページ）

2 [☎] または ◉（発信）

相手が出ると通話できます。画面には通話時間が表示されます。

3 通話が終わったら [☎ PWR]

お知らせ

- 外線発信番号はオフィスシステム（PBX）の設定によって異なります。
- 国際電話のご利用の可否についてはPBXの設定によりますのであらかじめご確認ください。
- 表示される通話時間は目安です。
- [☎] を押してからダイヤルしても電話をかけることができます。
- [☎] を 2 回押すと、前回かけた電話番号にリダイヤルされます。
- オフィスモードでは「分計発信」はご利用になれませんが、公衆 / オフィスモード（デュアルモード）であれば「分計発信」がご利用になれます。「分計サービスを利用する（有料）」（☞ 6-41 ページ）

電話を受ける

1 着信音またはバイブレータが動作する

着信中の回線の種別（外線／内線／専用線）が表示されます。回線の種別ごとに着信音を設定することができます。「着信音を設定する」（☞ 2-46 ページ）

2 [ ]

相手と通話できます。画面には通話時間が表示されます。

3 通話が終わったら [ ]

お知らせ

- 電話をかけてきた相手から発信者番号が通知されてきたときには、相手の電話番号が表示されます。また、電話帳に登録されている相手からかかってきたときは、名前が表示されます。「電話帳に登録する」（☞ 2-32 ページ）
- エニーキーアンサーを「ON」に設定すると、[ ] 以外に [保留]、[クリアマナー]、[ロ] ～ [9WXYZ]、[*]、[#]、[ ] を押しても電話に出ることができます。「エニーキーアンサーを設定する」（☞ 6-15 ページ）
- 着信中の回線の種別は、一部のオフィスシステムでは表示されない場合があります。

電話を転送する

一度受けた電話を、他の電話機に転送することができます。

1 通話中に [保留]

通話が保留になります。

2 転送先の電話番号を入力

3 転送先につながったら、取り次ぐことを伝えて [ ]

転送先につながる前に [ ] を押しても、電話は転送されます。転送先では、電話を受けるとすぐに相手とつながります。

外線発信番号を登録する（外線発信番号）

外線発信番号を登録することができます。登録しておくと、直接ダイヤルした番号、電話帳、発信履歴、着信履歴などで相手の電話番号を表示させて外線を発信するときに、外線発信番号をダイヤルするかわりに [G.C.D] を押すだけで、電話番号の先頭に外線発信番号を自動的に付けることができます。もう一度 [G.C.D] を押すと、外線発信番号は消えます。

1 待ち受け画面で [ ] [5JKL] [7PQRS]

「発着信」画面が表示されます。

2 [5JKL]

「外線発信番号」一覧画面が表示されます。

3 [ロ] ～ [9WXYZ] **のいずれか**

外線発信番号の入力画面が表示されるので、外線発信番号を登録するオフィス面の内線番号に対応したダイヤル番号を押します。

4 [ロ] ～ [9WXYZ]、[*]、[#] **で外線発信番号を入力 →** [ ]

外線発信番号が登録され、「設定しました」と表示されます。

お知らせ

- 外線発信番号は 6 桁まで入力できます。
- 入力した番号を修正する場合は、[クリアマナー] を押します。入力した数字が右端から消えます。

自動的に外線発信番号を付ける（自動外線発信番号付加）

オフィスモードで 0 から始まる 10 桁以上の番号に発信する場合に、先頭に自動的に「外線発信番号」で登録した番号を付加します。

1 待ち受け画面で ● 2 5

「自動外線発信番号付加」画面が表示されます。
待ち受け画面で ● 5 7 ロ を押して表示することもできます。

2 次の項目より選択 → ●

1 ON
自動外線発信番号付加を設定します。

2 OFF
自動外線発信番号付加を解除します。

自動外線発信番号付加が設定され、「設定しました」と表示されます。

お知らせ
- お買い上げ時には、「OFF」に設定されています。

優先発信するモードを切り替える(優先発信切替)

待受モードを「公衆 / オフィス」または「公衆 / グループ」に設定しているときに、どちらのモードで発信するかの優先順位を設定できます。

1 待ち受け画面で ● 2 4

「優先発信」画面が表示されます。
待ち受け画面で ● 5 7 8 を押して表示することもできます。

2 1

「優先発信切替」画面が表示されます。

3 次の項目より選択 → ●

1 公衆優先
公衆モード優先が設定され、待ち受け画面に「PHS OFFICE」または「PHS」が表示されます。

2 オフィス、グループ優先
オフィスモードまたはグループモード優先に設定され、待ち受け画面に「PHS OFFICE」または「PHS」が表示されます。

優先発信モードが設定され「設定しました」と表示されます。

お知らせ
- お買い上げ時には、「オフィス , グループ優先」に設定されています。
- 待ち受け画面で ● を 1 秒以上押すことでも、優先発信するモードを変更できます。
- 優先発信を設定しているモードが圏外のときは、優先発信に設定されていない方のモード（圏内時）に自動的に（一時的に）切り替わります。

優先発信するモードを一時的に切り替える

待受モードを「公衆 / オフィス」または「公衆 / グループ」に設定しているとき、一時的に優先発信するモードを切り替えて発信することができます。どちらかのモードが圏外のときは、切り替えることはできますが、切替先が圏外のときは発信できません。

1 相手の電話番号を入力 → 保留

2 ☎ または ● （発信）

相手が出ると通話できます。

お知らせ
- 通話を終了し、待ち受け画面に戻ると、元の設定に戻ります。モードの切り替えを次回からも有効にするには、優先発信切替で設定を変更します。「優先発信するモードを切り替える(優先発信切替)」(☞ 7-5 ページ)
- 電話帳で発信方法が指定されている場合は、優先発信切替の設定にかかわらず、電話帳の指定に従います。

発信時に発信方法の指定をする（発信時選択）

発信時に公衆で発信するかオフィス / グループで発信するか選択する画面（発信時選択画面）を出すかどうかを設定できます。

1 待ち受け画面で ● 2 4

「優先発信」画面が表示されます。
待ち受け画面で ● 5 7 8 を押して表示することもできます。

2 2

「発信時選択」画面が表示されます。

3 次の項目より選択 →

1 ON

「設定しました」と表示され、発信時に発信時選択画面が表示されます。

2 OFF

「解除しました」と表示され、発信時に優先発信切替（☞ 7-5 ページ）の設定に従い発信します。

お知らせ

- お買い上げ時は「OFF」に設定されています。
- 電話帳に発信方法の指定がある場合、優先発信切替の設定にかかわらず、発信履歴／着信履歴／番号メモ／電話帳／メール本文からの発信時は、発信時選択画面を出さずに電話帳の発信方法の指定に従って発信されます。「電話帳で発信方法の指定をする」（☞ 7-7 ページ）

確認メッセージの表示を設定する（ショートカット確認画面）

待ち受け画面で ○ を 1 秒以上押すことでも優先発信するモードを変更できますが、本電話機をポケットに入れているときなどに、誤ってボタンが押されて優先発信するモードが変更することを防ぐため、操作時に確認メッセージ（ショートカット確認画面）を表示するかどうかの設定ができます。

1 待ち受け画面で ○ 2 4

「優先発信」画面が表示されます。
待ち受け画面で ○ 5 7 8 を押して表示することもできます。

2 3

「ショートカット確認画面」が表示されます。

3 次の項目より選択 →

1 ON

「設定しました」と表示され、待ち受け画面で ○ を 1 秒以上押したときに、確認メッセージを表示します。

2 OFF

「解除しました」と表示され、待ち受け画面で ○ を 1 秒以上押したときに、確認メッセージを表示しないで、一時的にモードを切り替えて発信します。

お知らせ

- お買い上げ時は「OFF」に設定されています。

すべて公衆モードで発信する（070 強制公衆発信）

待受モードを「公衆 / オフィス」または「公衆 / グループ」に設定しているときに、070 で始まる電話番号を、すべて公衆モードで発信するかどうかを設定できます。

1 待ち受け画面で ○ 2 4

「優先発信」画面が表示されます。
待ち受け画面で ○ 5 7 8 を押して表示することもできます。

2 4

「070 強制公衆発信」画面が表示されます。

3 次の項目より選択 →

1 ON

「設定しました」と表示され、発信時に、070 で始まる電話番号をすべて公衆モードで発信します。

2 OFF

「解除しました」と表示され、発信時に、優先発信切替（☞ 7-5 ページ）の設定に従い発信します。

お知らせ

- お買い上げ時は「ON」に設定されています。

電話帳で発信方法の指定をする

電話帳に登録された電話番号に、発信方法を指定することができます。

1 電話帳登録画面で、◉ で入力済みの電話番号を選択

2 ⋯ で登録された電話番号に対する発信方法を選択

⋯（発信先）を押すごとに、電話番号の右端に表示される発信先アイコンが 内（オフィス発信）→公（公衆発信）→アイコンなし（指定なし）→内…と切り替わります。

お知らせ

- 電話帳の登録時にオフィス発信または公衆発信を指定すると、電話帳詳細画面で、電話番号の右端にはそれぞれ、内 公のアイコンが表示されます。
- 電話帳の登録方法については、「電話帳を新規登録する」（☞ 2-32 ページ）を参照してください。
- 電話帳の修正方法については、「電話帳の内容を編集する」（☞ 2-39 ページ）を参照してください。
- 電話帳で発信方法の指定ができるのは、オフィスシステム（PBX）に登録されている場合のみです。

■ 電話帳で発信方法の指定をした場合の発信動作について

電話帳で発信方法の指定をした場合の発信動作は、待受モード、優先発信切替の設定により次の表のようになります。

<table>
<tr><th rowspan="2">待受モード</th><th colspan="2">電話帳での発信方法指定</th></tr>
<tr><th>公 公衆</th><th>内 内線</th></tr>
<tr><td>公衆モード</td><td>公衆発信</td><td>発信できません</td></tr>
<tr><td>オフィスモード</td><td>発信できません</td><td rowspan="4">オフィス発信</td></tr>
<tr><td>公衆＋オフィス（公衆優先）</td><td rowspan="2">公衆発信</td></tr>
<tr><td>公衆＋オフィス（オフィス優先）</td></tr>
<tr><td>公衆＋オフィス（公衆圏外）</td><td>発信できません</td></tr>
<tr><td>公衆＋オフィス（オフィス圏外）</td><td>公衆発信</td><td>発信できません</td></tr>
<tr><td>グループモード</td><td>発信できません</td><td rowspan="4">グループ発信</td></tr>
<tr><td>公衆＋グループ（公衆優先）</td><td rowspan="2">公衆発信</td></tr>
<tr><td>公衆＋グループ（グループ優先）</td></tr>
<tr><td>公衆＋グループ（公衆圏外）</td><td>発信できません</td></tr>
</table>

お知らせ

- 待受モードについては、「利用するモードを選ぶ」（☞ 7-2 ページ）を参照してください。
- 優先発信切替については、「優先発信するモードを切り替える（優先発信切替）」（☞ 7-5 ページ）および「優先発信するモードを一時的に切り替える」（☞ 7-5 ページ）を参照してください。

オフィス番号を切り替える（オフィス番号切替）

オフィスモードの内線番号が複数登録されているときに、使用するオフィス面を自動または手動で切り替えます。

1 待ち受け画面で ● 2 ABC 3 DEF

「オフィス番号切替」画面が表示されます。
待ち受け画面で ● 5 JKL 6 MNO 5 JKL 6 MNO を押して表示することもできます。

2 次の項目より選択 → ●

1 自動切替
「異なるオフィスシステムが近接しているエリアでは発信着信に失敗する場合があります」と表示され、オフィスモード用の電波が検知されます。数秒後、電波の強いオフィスの番号に自動的に切り替わり、「設定しました」と表示されます。

2 手動切替
オフィス面の一覧が表示されるので、使用する番号を選択して ● を押します。オフィス面が設定され、「設定しました」と表示されます。

お知らせ
- お買い上げ時には、「手動切替」に設定されています。
- オフィスモードの内線番号を登録すると「手動切替」に設定されます。

オフィスEメールを送受信する

公衆モードでのEメール送受信と同様に、オフィスモードでEメールを送受信することができます。「Eメールを作成送信する」（☞ 3-7ページ）

■ オフィスモード時の接続モードを設定する

オフィスEメールを送受信するには、あらかじめオフィスモード時の接続モード（接続先、送信メールアカウント、受信メールアカウントなど）を設定しておく必要があります。「オフィスモード時の接続モードを選択する（オフィス接続モード選択）」（☞ 3-42ページ）

オフィスモードでのその他の機能

オフィスモードで使用する際、基本的に以下の機能を使用できます。実際に使うことのできる機能については登録されている事業所用コードレスシステムによって異なりますので、詳細については設置業者、PBXメーカなどにお尋ねください。

プッシュ信号の送信
通話中にダイヤルボタンを押して、プッシュ信号を送出します。

内線番号表示
本電話機の内線番号を表示します。「プロフィールを表示する」（☞ 6-5ページ）

通話中保留
通話中に 保留 を押して通話を保留します。保留を解除するときは、もう一度 保留 を押します。

内線／外線への転送
保留状態で転送先の電話番号をダイヤルし、転送先の相手が出たら 転送 を押します。

キャッチホン
通話中に「プップ‥プップ‥」という音（キャッチホン）が鳴ったときに、☎ を押して通話相手を切り替えます。

外線／内線／専用線の着信音鳴り分け
外線／内線／専用線からの着信を識別し、それぞれに着信音を設定できます。「着信音を設定する」（☞ 2-46ページ）

お知らせ
- 着信音の鳴り分けは、一部のオフィスシステム(PBX)では動作しない場合があります。「着信音を設定する」（☞ 2-46ページ）

グループモードで使う

本電話機およびグループモードに対応した電話機をグループ登録することにより、「相手を呼び出す〔トランシーバ通話〕」(☞ 7-11 ページ)、「相手の呼び出しに応じる〔トランシーバ通話〕」(☞ 7-11 ページ) を行うことができます。

■ グループ登録

電話機を送信側、受信側として登録します。グループを 1 つ登録できます。
送信側 1 台と受信側 1 台以上の間で双方向に、または受信側どうしで、トランシーバ通話が可能です。

■ モードの切り替え

トランシーバ通話をするには、待受モードを「グループ」または「公衆 / グループ」に切り替えます。待受モードを切り替えるときは、あらかじめトランシーバ番号を登録しておく必要があります。「待受モードを切り替える (待受モード設定)」(☞ 7-2 ページ)

グループを登録する

電話機を送信側、受信側として登録します。登録を行うには、送信側 1 台と受信側 1 台以上の本電話機またはグループモードに対応した電話機が必要です。
グループを1つ登録できます。あらかじめ同一の 4 桁の暗証番号を決めておく必要があります。

受信側の操作

登録するすべての電話機をお手元にご用意ください。まず、受信側の登録から始めます。

1 待ち受け画面で ◉ 2 2 1

「グループ登録」画面が表示されます。
待ち受け画面で ◉ 5 6 2 1 を押して表示することもできます。

2 #

「トランシーバ番号を入力してください」と表示されます。

グループが登録されている場合
「登録を上書きします　よろしいですか?」と表示されます。◎ で「Yes」または ◎ で「No」を選択して、◉ を押します。

3 1 ～ 9 でトランシーバ番号を入力

0001 ～ 8000 の間で、任意の番号を入力します。0001 は「1」、0123 は「123」というように、上位桁の「0」は省略して入力することができます。
「オフィス 1」に内線番号が 0 ～ 8000 の間で登録されている場合、その番号が受信側のトランシーバ番号としてあらかじめ入力されています。必要に応じて修正してください。
「オフィス 1」の内線番号は、◉ 2 3 2
「オフィス手動切替」で「1オフィス 1」を選択したときに、画面右下に表示されます。

4 #

グループ暗証番号入力画面が表示されます。

5 1 ～ 9 で 4 桁のグループ暗証番号を入力

「送信側の操作」の手順 3 (☞ 7-10 ページ) で入力する暗証番号を入力します。

6 #

「待機中」と表示されます。この間に、送信側の操作を行います。「送信側の操作」の手順 4 (☞ 7-10 ページ) のときに、送受信が開始されます。送信側の電波を受信すると完了音が鳴り、受信側が登録されます。

登録できなかったとき
エラー音が鳴り、受信失敗となります。PWR を押すと、手順 1 のグループ登録画面に戻ります。

お知らせ
- 受信側は約 30 秒間待機中となりますので、その間に送信側の操作を行ってください。
- トランシーバ番号やグループ暗証番号を修正する場合は、クリア/マナー を押します。入力した数字が右端から消えます。

送信側の操作

1 待ち受け画面で ● 2 2 1

「グループ登録」画面が表示されます。
待ち受け画面で ● 5 6 2 1 を押して表示することもできます。

2 ＊

グループ暗証番号入力画面が表示されます。

グループが登録されている場合
「追加登録しますか？」と表示されます。◎で「Yes」または◎で「No」を選択して、●を押します。

3 □ ～ 9 で 4 桁のグループ暗証番号を入力

「受信側の操作」の手順 5（☞ 7-9 ページ）で入力した暗証番号を入力します。

4 受信側の電話機に「待機中」と表示されていることを確認 → #

送信が成功すると「送信終了」と表示され、送信側が登録されます。

送信が失敗したときは
エラー音が鳴り、「送信失敗」と表示されます。⌐ を押すと、手順 1 のグループ登録画面に戻ります。

お知らせ
- 「オフィス 1」に内線番号が 0 ～ 8000 の間で登録されている場合、その番号が送信側のトランシーバ番号に設定されます。それ以外の番号が登録されていたり、内線番号が登録されていない場合は、「0」に設定されます。
- グループ暗証番号を修正する場合は、クリア/マナーを押します。入力した数字が右端から消えます。

グループ登録を削除する

グループ登録の内容をすべて削除します。

1 待ち受け画面で ● 2 2

「グループ」画面が表示されます。
待ち受け画面で ● 5 6 2 2 を押して表示することもできます。

2 2

「暗証番号を入力してください」と表示されます。

グループが登録されていないとき
2（グループ削除）は選択できません。

3 暗証番号認証を行う

「暗証番号で認証を行う」（☞ 5-6 ページ）
認証されると、「グループ登録を削除しますか？」と表示されます。

4 ◎で「Yes」を選択 → ●

グループ登録が削除され、「グループ登録を削除しました」と表示されます。

相手を呼び出す〔トランシーバ通話〕

待受モードを「グループ」または「公衆 / グループ」に切り替える必要があります。「待受モードを切り替える（待受モード設定）」（☞ 7-2 ページ）デュアルモードの場合、「優先発信切替」が「オフィス、グループ優先」になっていることをご確認ください。「優先発信するモードを切り替える（優先発信切替）」（☞ 7-5 ページ）

1 待ち受け画面で相手のトランシーバ番号を入力

入力したトランシーバ番号が表示されます。トランシーバ番号を修正する場合は、クリアマナー を押します。入力した数字が右端から消えます。

2 または （発信）

相手が応答すると通話ができます。

3 通話が終了したら PWR

お知らせ

- グループ登録を行った電話機間で、トランシーバ通話ができます。
- グループ登録時の受信側、送信側のどちらからでも発信できます。また、受信側どうしでも発着信ができます。
- 次のときには通話が終了することがあります。
  - ·距離が離れすぎたとき
  - ·電池の残量がなくなったとき
  - ·なんらかの原因で電波の受信ができなくなったとき（このときには「ツーツーツー」という切断音が聞こえます）
- 通話中、約 3 分ごとに自動的に通話が切れますが、自動的にもう一度つながります。

相手の呼び出しに応じる〔トランシーバ通話〕

グループの電話機からの着信を受けるには、待受モードを「グループ」または「公衆 / グループ」に切り替える必要があります。「待受モードを切り替える（待受モード設定）」（☞ 7-2 ページ）

1 着信音またはバイブレータが動作する

2

相手と通話できます。画面には通話時間が表示されます。

3 通話が終了したら PWR

お知らせ

- 呼び出しを受けてから約 30 秒たっても を押さないときには、自動的に接続を中止します。
- 着信中に、すぐに電話にでられないとき、または を押して着信音やバイブレータの動作を止めることができます。